



くらしの演出家たち

小松幸雄さん

小松建設株式会社 代表取締役

3



小松幸雄さん、48歳、小松建設(株)代表取締役、4代目。北海道工業大学で建築を学んでいた最中の昭和55年、伊達高校の同級生だった鈴木陽さん、藤井豊一さんとフォークグループ「手風琴」を結成。昭和57年、プロデビュー。その後、家業を継ぎ、音楽から遠ざかっていたが、近年ライブ活動を復活。建築の依頼主とも音楽を通じてコミュニケーションを図るなど、音楽活動で得た宝を生業にも生かしている。

四半世紀の時を経て

3月17日、小松幸雄さんは伊達市街地に建つ音楽ホールにいた。ジーンズ履きのラフないでたちでステージに立ち、ギターを抱え、巧みに弦を爪弾いていた。その姿はどこから眺めても、建築会社の代表には思えない。

実は小松さんにはこんな過去がある。25年前に北海道からメジャーデビューを果たした「手風琴」の二員だったのだ。手風琴は、伊達高校出身の同級生2人と共に結成したフォークグループ。3枚目のシングル「情春賦」は、北海道建築のCMソングにも採用されている。しかしデビューから2年後、小松さんはプロ生活にピリオドを打ち、故郷の伊達で家業を継いだ。

「音楽が好きで楽しくて入った世界でしたが、現実には厳しかった。旅から旅の生活の中で、音楽という夢を追うことが辛くなりました。一度は身を引い

た音楽の世界、けれど6年前、企画アルバム制作がきっかけになり、手風琴を復活させた。翌年にはベスト盤のCD化も実現。以来、年に2度ほど、本業の傍ら、ライブ活動も行うようになってきた。3月のステージも地元のライブハウス主催の音楽祭に、手風琴として参加したものだ。かつてのメンバーの一人、鈴木陽さんと共にステージに立った。道内出身のミュージシャン仲間が見守る中、現役を退いた今もなお、透明感を見失わない鈴木さんの歌声と小松さんのギターの繊細な音色で往年の名曲が蘇った。

「デビューから25年経った今、ようやく音楽が、また楽しくなりました。こうして仲間と音楽を介して集うひとときは、これまでの人生を振り返る時間でもあるのです。それが、今の自分の暮らしや仕事を前へ前へと進める力の源になっています。小松さんは語り、少年のように微笑んだ。

大工の父の背を見て

一時は身を置いていた華やかな芸能界と、生まれ育った環境。この2つはまるで正反対のものだった。宮大工の曾祖父は明治末期に秋田から北海道へ渡り、大正10年に建設業請負を生業とする小松組を創立。2代目の祖父は職人を引き連れ、北海道に次々と誕生していた学校の校舎を建てて歩いたのが自慢だった。3代目を継いだ大正生まれの父もまた、職人気質の頭固を絵に描いたような男。そして4代目であ

る小松さんが生まれたのは、昭和34年。まだ厳しい徒弟制度が残っており、実家には常に5、6人の職人見習いの若者が住み込んでいた。

「彼らを見のように慕い、遊んでもらう中で、幼心にもうつつらと自分も将来は家業を継ぐのだからと思っただけでした。その一方で、子どもの頃から、いつもあんなお堅い頑固者にだけはなりたくない」と、父に反発ばかりしていましたが、「反抗期真っ盛りだった中学時代、音楽と出会い、ギターを弾くことに夢中になる。地元の伊達高校に進学後はバンド活動に明け暮れた。

「女の子にモテたいという不純な動機でやつっていたばちが当たったのか、ちつともモテませんでした(笑)。不遇の高校時代を経て、札幌にある北海道工業大学建築学科に進学。その頃には音楽への情熱も冷めかけていた。

大学3年のある出会いが小松さんの運命を変えた。偶然遊びに行ったススキノの店で、高校で同級だった鈴木さんと藤井豊一さんに再会。そして、音楽の話で意気投合。大学は別だったが、残り少ない学生生活を一緒に楽しもうと、サークル感覚でバンド活動を開始。これが「手風琴」のはじまりだ。

「オリジナルの持ち歌が5曲しかないのに、たまたま2つのコンテストで賞をもらっちゃったんです。2番まで歌詞がついていたのは、たつた2曲だったのですね。僕らも周りも才能があると勘違いして、その波をつかんで乗っついていけば、十分にプロへの道が突っ走りました。」

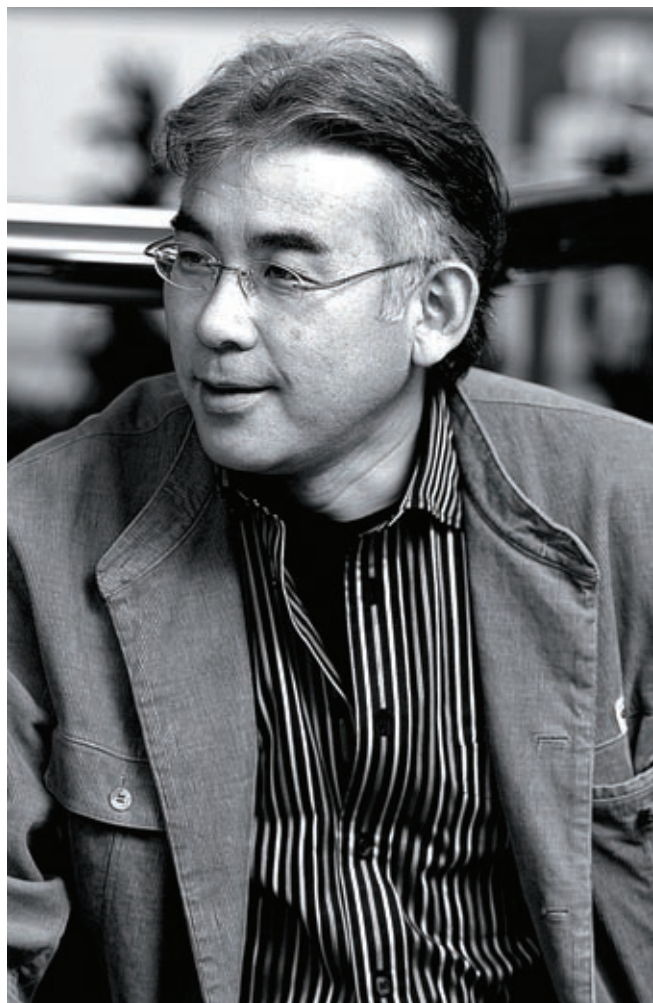
音楽を人生の友に

3人が大学を卒業する年の2月、今から25年前に、VAPレコードからプロデビューが決定。しかし、伊達で帰郷を待つ父には言い出せずにいた。そしてデビュー直前、プロになると宣言。父からは勘当を言い渡された。

「あとで知ったことですが、あの頑固者の父がデビューレコードを300枚も買って、あちこちに配ってくれていたそうです」。

分刻みで組み立てられたスケジュールと、自宅を出たら2カ月は戻れない旅暮らし。好きな歌から売れる歌への要求の変化。努力と忍耐を強いられるプロの世界に、やがて疲弊し、2年間の活動の後、舞台を去る。

「音楽は好きでしたが、学業も手を抜かず、建築士の資格を取得していま



した。心の中では、子どもの頃から身近で見てきた建築の世界に、どこから未練があったんだと思います。歌も建築も、ものづくり。僕の中ではどちらも同質のものだったんですね。厳格な父は何も語らず、帰郷した息子にこく当たり前のように家業を手伝わせた。小松さん自らも音楽から遠ざかり、心の奥に潜む夢の残像にも目を向けず、仕事三昧の30代を過ごした。

「当時の業界はまだ硬い気風でしたから、音楽とか手風琴なんて言葉を出すだけで、道楽者のレッテルを貼られるんじゃないかと恐れていました。また4代目という肩書きが重く、仕事にも自信がもてなかったのかもしれない」。無我夢中の30代が過ぎ、仕事の基盤が自分なりにできたと感じるようになった頃、再びギターを手にとった。企画CDを制作する話がかつての仲

間、藤井さんから舞い込んだのはそれから間もなくのことだ。

「音楽から遠ざかって初めて、人と人のつながりや出会いの大切さなど、音楽を通じて培ってきたものの大きさを実感しました。それが僕の仕事を助けてくれました。そう気づいたときに肩の力が抜け、音楽のある暮らしや仲間との付き合いが楽しくなりました」。

音楽活動を再開した小松さんは、昨年夏、建築を手がけた新築物件でのミニ音楽会を企画。今後は「仕事の場面でも、好きな音楽を通じて依頼主やその家族とのコミュニケーションを深めていきたい」と語る。また、仲間の協力を得ながら、地域の音楽文化の育成と振興に役立つ活動にも取り組む予定とか。小松さんと仲間たちが奏でる音楽の輪は今、ステージから街の暮らしの中へと広がるうとしていく。



「手風琴」最新アルバム Our Best

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 惜春賦 | 8. グレンミラーを聞きながら |
| 2. 夏の思い出 | 9. 時計 |
| 3. 夏を返したい | 10. Mの残像 (おもいで) |
| 4. 渚 | 11. 冬枯れの道 |
| 5. 交差点 | 12. 雪の絵 |
| 6. 夢のページ | 13. ふたり |
| 7. 旅人になれたら | 14. 365日 |

Bonus Track
とみちゃんのうた (サザエ食品CMソング)

好評発売中 2100円(税込)
インターネットによる販売も承っています。
ご希望の方は下記URL「手風琴オフィシャルサイト」内の「SHOP」のページをご覧ください。

手風琴オフィシャルサイト
<http://www.tefuukin.net/>



毎年、伊達市で行われるKANZY音楽祭に参加。左から2人目が小松さん。道内外で活躍するバイオリニスト、杉田知子さん(右から3人目)と手風琴のセッションは、昨年に続き2度目。